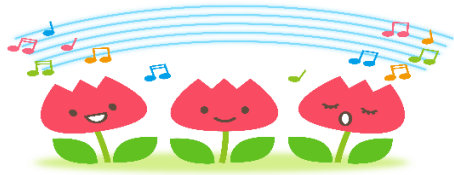




わんわん通信 NO.2



やまなか訪問看護ステーションです💧

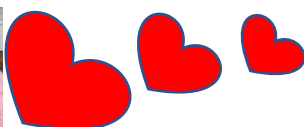
今回は私たちの訪問看護ステーションについてお話させていただきます。

私達が訪問看護ステーションを立ち上げた一番の思いは最後まで在宅で…ということです。療養生活を送るうえで介護への負担はもちろん不安も大きいと思います。そういった在宅ならではの問題を今までの経験を活かし一緒に頑張ることができたらと考えています。私自身、がん専門病院(急性期・慢性期)や緩和ケアを主とした診療所に務めていたこともあり、ご家族含めての看護の大切さなど貴重な経験をさせて頂きました。また、以前勤めていた訪問看護では障害者や難病のかたもおられ、ALS(呼吸器装着)の方のケア全般、脊髄損傷の方の摘便では個人によって方法も違い1時間近くかけて実施したりとたくさんの経験をさせて頂きました。最期まで在宅で過ごされ家族様と共にエンゼルケアを実施するとき、昔を振り返りながらご本人が気に入っておられた衣装に着替え、化粧を笑顔でされている様子は本当に感慨深いものです。改めてご家族のパワーを感じました。

また私自身、口腔ケア・口腔リハビリの大切さを感じており、最期まで口から食べるということの重要性を歯科医の先生から教えて頂きました。指やモアブラシを使っての口腔ストレッチをすることで舌の動きや嚥下状態の低下を予防できるのです。

このように在宅だからできることを積極的に行っていきたいと考えています。

また、保健師の資格を持った看護師もいますのでご相談がありましたらご遠慮なくして頂ければと思います。



今回は「モモ」についてお話ししたいと思います。

モモは以前緩和ケア専門の診療所に勤めていた時に縁があり引き取ることになりました。

その診療所はペットも一緒に過ごせました。男性の方で本当にかわいがっており、口癖のように「ももが心配や」と言われておりました。モモは飼い始めてすぐに交通事故にあい片足が不自由でした。しばらく共に過ごしていましたがモモはそばで最期を看取りました。残ったモモはスタッフも手を尽くしましたが引き取り手がなかなか見つからず悩んでいたため私は思い切って引き取ることを伝えました。

それから私とモモは毎日一緒に出勤しました。もともと診療所には犬と猫がいたり、スタッフの犬たちが来たりしていました。モモはとてもおとなしく、お見舞いに来た家族様の癒しになっていきました。そして私の仕事の相棒にもなってくれました。今は高齢になり自宅でゆっくり過ごしています。たくさんの人を癒してくれたので大切にしなければと思っています。



ちなみに生クリームが大好きで、時々おすそ分けしています❤️

読んでいただいてありがとうございました。次回は肝門脈シャントのレオの話をしたいと思っています。